

トマト健康法 2

koberyo1

去年はことのほか暑い夏だった。日中はもちろん作業は行わなかったが、早朝から正午くらいまで、まだ気温がさほど上昇しない時間帯を狙ってトマトづくりを毎朝、行った。

トマトづくりだが、毎年豊かな収穫を得るまでになったが、それでも何年かトマトづくりしていると色々気になること、反省点などもでてくるものだ。それらをいくつか以下にまとめてみた。自分のトマトづくりのための今後の参考にしたい。

1.まず土づくりであるが、これはできるだけ早く行動すべきだと思う。トマトの苗を植え付ける前年の年末には実行すべきである。肥料の効果発揮は、すべての土台となる。

2.春先は低気圧が3～4日の周期でやってくるので、春の嵐に対し、苗木のくくりつけをすることになる。だが、風が強いと折れることになり、もっと工夫して結びつける必要があるだろう。結び目はあまり強くしない方がいい。

3.苗木の植え付けは毎年五月の初旬にしているが、天気のよい日を選んでやってはいるものの雨に日があたりして、植え付け時期が延びる場合がある。天気のよい日は一気に植え付けなければならない。30本の植え付けに要するのに半日は必要となるだろう。

4.毎朝「トマトーン（植物成長調整剤のこと）」の噴霧をまめにやるのが原則なのだが、実行がともなわなかったと自己反省している。5.苗木が植えた土に落ち着くまでの時間だが、天気のようにすにも関係するが、約一週間くらいかかるとみるべきである。苗木の伸長とともに脇芽のカットが多忙になる。トマトの「表情」は毎日変化するので脇芽はカットする日、カットしない日でも毎日、みてやるべきである。

6.土壌の畝の高さはより高い方がよいとは思いますが、ブラックシートをかける都合上、作業しやすい高さや幅は、トマトの根の張る都合上、高さ15センチ、幅は70センチくらいがよい。これは毎年の注意事項であり、研究課題でもある。

7.風よけの対策としてトマトの苗をビニールで囲ってしまうのはトマトには病気になる要素をつくってしまう。風通しのよいのはもちろんだが、強風対策としてはやはり、網目のシートを外まわり、それから苗木まわりと二通りの対策にすべきである。雨対策

にもなるし、強風や豪雨の両面の対策として一石二鳥である。

8.花が実に移行する時期は尻腐れが発生しやすいので、これは土壤にカルシウムが不足していると実感した。石灰は必ず12月中に土中に混入すべきで、「ドサツ」と一度にまとめて入れてしまうと効果がない。土中に入れるときは十分攪拌して、均して入れるべきである。

9. 入梅時は毎日雨が強く降るので、水はけは土地の高低をみつけてやる必要がある。水たまりができるのは最も悪い。

10.数年の収穫をみて、こまめに作業することが必要であるものの、自分の体力にあわせて、どう対応すべきか毎年の課題であり、作業の方法もどうあるべきかを要チェックである。

11. トマトの糖度を高くするためには酵素を利用すべきである。少々購入費もかさむが、おいに使用すべきである。今年は糖度計の購入を考えている。今まではトマトの糖度を測定しなかったのは、おいに反省すべき事項になる。

12. 苗木30本を植えるわけだが、そこはやはり畑の面積との関係をまず先に考えておかなければならない。というのも、苗木と苗木との間隔をあらかじめ考慮せずに植えると、あとになってトマトの木が成長すると、作業がしにくくなるし、体が接触したりしてトマトを傷つける場合が多々あるからだ。

よって一つの畝に植える場合、これまで五本植えていたのだが、これを四本にしたかどうかと思っている。しかしながら、これは収穫する量にも影響するので、これからも十分研究が必要だと考える。

13. 総括として自己流を最善の方法として、用具の準備や作業もやってきたが、他者はどうやっているのかヨソの作業内容も調査する必要ありと思う。ただし、お金のかかることはなるべく避け、風対策、雨対策は収穫やコストなど、経営者的感覚で全体から俯瞰した視点で判断し、考慮すべきだと思う。なお、苗木はトマトの接木（ツギキ）を農協から一本120円くらいで購入したが、今年は消費税8%の導入もあって備品の購入など、いろいろ高くつく要素が山積しているので収穫の向上をはじめ、質の洗練など、さらに深めるべく努力したいと考えている。